

## #2 使徒行伝の継続—人類歴史の内にある 神聖な歴史の中で生きる

(国際長老責任者訓練) 2018/11/19-25

**I. 使徒行伝が啓示しているのは、一群れの人々が行動する神として、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きているということです。彼らは、命、性質、表現、機能において(しかし、神格においてではない)神と成っており、召会を拡大させ、建造し、キリストの団体的な現れとなっています:**

**A.** ペテロは使徒行伝において最初に福音を告げ知らせたとき、ヨエル書から引用しました。ヨエル書が啓示しているのは、外側の人類歴史の内にある、内在的で神聖な歴史です。

**ヨエル2:28** その後、私は私の霊をすべての肉の上に注ぎ出し、あなたがたの息子と娘は予言し、あなたがたの老人たちは夢を夢見て、あなたがたの若者たちはビジョンを見る。32 そして、エホバの御名を呼び求める者はすべて救われる。それはエホバが言われたように、シオンの山とエルサレムに逃げ場があり、その残された者[レムナント]を、エホバが召されるからである。

**B.** 人類歴史の内にある神聖な歴史とは、キリストが「永遠の日々から」「出て行」き、時間の架け橋を經過して、未来の永遠へと至ることです。それによって彼は、彼の選ばれた者たちの中へと分与されて、すべての諸国民の願いとなり、彼が団体的に現され、彼の栄光が完全に現されます。

**C.** ヨエル書が語っているのは、手順を経て、究極的に完成された、複合の霊が注ぎ出されることに関してであって、この霊はペンテコステの日に注ぎ出されました。この霊は、究極的に完成された三一の神であり、またキリストの実体化であって、キリストを現します。【月】

**II. 使徒行伝は、終わりのない書です。なぜなら、この書は依然として継続しており、人類歴史の内にある神聖な歴史となっているからです:**

**使徒28:30** こうして、パウロは自分の借りた住居に満二年、滞在して、彼を訪ねて来るすべての人を喜び迎え、31 大胆に、妨げられることなく、神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストについての事柄を教え続けた。

**A.** 主は言われました、「私の父は今に至るまで働いておられる。だから、私も働いているのである」(ヨハネ5:17)。これが示している事は、サタンの反逆と人の墮落の後、神は今に至るまで働いており、主も働いているということです。

**B.** 使徒行伝は、神の働きの記録です。使徒第28章の後も、神の多くの器が依然として神の働きを継続しています。神の働きは継続しており、止まったことはありません。

**C.** 神の働きは前進して、王国にまで至り、さらには新天新地にまで至ります。神はいつも前進しており、決して止まることはありません。もし私たちがこの事を知り、信じるなら、私たちは主を賛美します。新エルサレムに至っても、主の奴隷たちは主に祭司として仕えます。【火】

**D.** キリストの信者たちを通してキリストを宣べ伝えて、キリストを増殖させ、繁殖させ、拡大させるという聖霊の働きは、まだ完了しておらず、長期間にわたって継続する必要があります。

**E.** キリストを増加させ、増殖させ、繁殖させ、拡大させるこのような福音の働きは、神の新約エコノミーにしたがっており、神の多くの子たちを生み出して、彼らをキリストの肢体とならせ、彼のからだを構成して、神の永遠のご計画を完成し、神の永遠のみこころを成就することです。この事は、使徒行伝の後に続く二十一の書簡と啓示録の中で、詳細にわたって啓示されています。

**ローマ8:29** なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

**12:5** 私たちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。

**F.** 神が求めているのは、団体的な輝く器、すなわち、証しの器であるので、神の子供たちは、キリストのからだの感覚へともたらされて、からだの生活をするのを学ばなければなりません。そうでなければ、彼らは神の御手の中で役に立たず、決して神の目標を成就することができません。

**G.** 勝利者たちの証しでさえ、召会全体のためです。彼らは働きを行ない、召会全体は益を受けます。

**H.** 勝利者たちは、自分自身のためではありません。彼らは召会の立場の上に立って、そこにおいて召会全体を完成へともたらします。勝利者たちの勝利でさえ、団体的な勝利です。【水】

**III. 神の言葉は依然として成長し、増し加わりつつあり、使徒行伝の継続となっています:**

**使徒6:7** こうして神の言は成長し、弟子の数はエルサレムで大いに増し加わった。そして大勢の祭司たちが、その信仰に従うようになった。

**12:24** しかし、神の言は成長し、また増し加わった。

**A.** 使徒第6章7節の「成長し」は、命の成長を指しています。これが示している事は、神の言葉が命の事柄であって、種のように人の心の中へとまかれて成長し、私たちの内側でのキリストの増し加わり、神の増し加わりになるということです。

**B.** 使徒第12章24節の「増し加わった」は、人数におけるキリストの増し加わりを指しています。実は、弟子たちの増し加わりは、言葉の成長にかかっています。

**C.** 新しい弟子たちが「主に加えられ」て、キリストの各部分、すなわち、キリストの肢体たちとなります。

**使徒5:14** そして、信者たちはますます多くなり、男と女の群れが主に加えられていった。

**D.** 私たちは新しい信者たちを、「心に決意して主にとどまる」ようにと励ます必要があります。これは、主に対して絶えず忠信になり、主に堅く結び付き、主との親密な交わりの中に生きることです。

IV. 使徒行伝が啓示しているのは、主の御名を呼び求め、主の御名のために苦難を受け、主の御名、すなわち、イエスの御名の中で語ることによって、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きている一群れの人々です:

**A.** 神の新約のヨベルに関するヨエルの予言とその成就には、二つの面があります。神の側では、彼はご自身の霊を、復活したキリストの昇天において注ぎ出しました。私たちの側では、私たちは、すべてを成就し、すべてに到達し、すべてを獲得した、昇天した主の御名を呼び求めます:

**①**人類歴史のただ中にある私たちの神聖な歴史は、主の御名を呼び求めて、キリストの豊富を享受し、キリストの豊満としてのキリストのからだを建造する歴史です。

**②**主の御名を呼び求めることによって、私たちは自分自身を、神の黄金の神聖な歴史の中に保ちます。この歴史は、エノスをもって始まり、旧約と新約を通して継続し、聖書の最後の祈りをもって終結します。【木】

**B.** 私たちは神聖な歴史の中で生きているとき、人類歴史の内では主の御名のために苦難を受けます。御名(人には辱められたが、神には尊ばれたイエスという御名)のために辱められることは、真の誉れです。

使徒5:41 そこで彼らは、御名のために辱められるにふさわしい者とされたことを喜びながら、サンヘドリン[最高法院]の前から出て行った。

**C.** 私たちは、「イエスの御名の中で大胆に」語ることによって、人類歴史の内にある神聖な歴史を遂行します。この御名は、主が彼のパーソンと働きにおいて何であるかの総体的な表現です。使徒9:27 しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちの所に連れて行った。そして、サウロが路上で主を見た様子や、主が彼に語りかけられたことや、ダマスコで彼がイエスの御名の中で大胆に語った様子などを、彼らに話した。

V. 使徒行伝が啓示しているのは、一つからだとして生活し、行動し、活動することによって、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きている一群れの人々です。彼らはあらゆる事を、からだの中で、からだを通して、からだのために行ないます:

**A.** 主イエスは死に、復活し、昇天した後、継続して地上の無数の人々の中で生き、活動し、歩き、働いています。なぜなら、彼はご自身の死と復活を通して、ご自身を彼らの中へと分け与えたからです。

**B.** 四福音書は私たちにかしらの絵を与え、使徒行伝は私たちにからだを見せています。実は、使徒行伝は、キリストがその霊によって、からだ(彼の繁殖と複製)としての召会の中で取っている行動です。

VI. 使徒行伝が啓示しているのは、自分を拒絶し、別の命、すなわち、神聖な命としてのキリストによって生きることによって、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きている一群れの人々です。キリストのこのような団体的な生活が、キリストのからだの実際です:

**A.** 使徒第5章20節で「この命」によって示された命と

は、ペテロが宣べ伝え、供給し、生きた神聖な命です。この命は、ユダヤ教指導者たちの迫害、脅迫、投獄に打ち勝ちました。ペテロの生活と働きは神聖な命を、彼の状況の中でとても実際的で現実のものとしたので、御使いさえもそれを見て、指摘しました。

**B.** パウロは、自分の霊の中のすべてを含むイエスの霊(神聖な霊とパウロの人の霊とがミングリングされて一となった霊)によってキリストを生き、神に仕えました。彼は、幕の内側(実際的な至聖所としての彼の霊の中)で生き、営所(人の宗教の組織)の外に出ました。

**C.** 私たちは人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生き、私たちの人生において神聖な命によって生きるために、主に対して開かれた器となって、主を愛し、主を受け入れ、主で満たされ、主に私たちのすべてとなっていたら、私たちの中で、私たちを通して、私たちのためにすべてを行なうていただく必要があります。【金】

VII. 使徒行伝が啓示しているのは、祈りと言の務めを堅く持ち続けることによって、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きている一群れの人々です。これは、使徒の務めの中に生きて、私たちの大いなる大祭司としてのキリストの天の務めと組み合わされることです:

ヘブル8:1 …私たちにはそのような大祭司がおられ、彼は天で威光ある方の座の右に着き、2 聖所である真の幕屋の奉仕者となっておられます。この幕屋は、人が張ったものではなく、主が張られたものです。

**A.** 祈りによって、私たちは思いを上にあるものに置き、天におけるキリストの務めの反映となります。私たちは祈りに頼って、人にはできない事を行ない、人には理解できない事を理解し、人には語ることのできない事を語ります。

**B.** 言の務めによって、私たちはキリストを天的命また力として、他の人たちの中へと分け与えます。それによって彼らは、キリストの豊富をもって支えられ、彼らの天的命としてのキリストを地上で生きます。

ローマ15:16 それは、私が異邦人へのキリスト・イエスの奉仕者となり、神の福音の労苦する祭司となるためであって、ささげ物である異邦人が聖霊の中で聖別されて、受け入れられるためです。

VIII. 使徒行伝が啓示しているのは、詩篇第68篇に見られる、人類歴史の内にある神聖な歴史の中で生きている一群れの人々です。これが見せているのは、キリストが地上における神の行動の中心であり、また召会を通してなされる神の活動の実際であるということです:

**A.** 日々私たちは、手順を経て究極的に完成された三一の神を、命を分与する霊、また注ぎ出された霊として、享受する必要があります。

**B.** 私たちは、福音を宣べ伝える者の「岸」としてのキリストの中に住んで、福音の宣べ伝えにおける輸送と拡大になる必要があります。ペンテコステの日に、少なくとも百二十の福音の「船」(彼らはみなガリラヤ人でした)が、岸から出帆し、福音を拡大させました。【土】



## 経験①: Boys, be ambitious in Christ & in God's economy! 青年たちよ、キリストの中で、また神のエコノミーの中で、 大志を抱け!

人には常に一つの誤った観念があります。それは自分の時代が召会の最悪の時代であるという観念です。マルチン・ルターの時に、ある者はこのように思いました。ジョン・ウェスレーの時に、ある者はこのように思いました。私たちはマルチン・ルターの時代はすばらしい時代であり、ジョン・ウェスレーの時代もすばらしい時代であったと思います。私たちは彼らの時代はすばらしかったと考えますが、私たちの五十年後に来る人たちは私たちの時代がすばらしかったと言うでしょう。私たちは人が止まることを恐れます。しかし、神は決して止まることはありません。…神はいつでも前進しておられます。ハレルヤ！ 神は前進し続ける神です！

神が前進される時には、いつでもいくつかの器を見いだされます。使徒行伝において神はいくつかの器を見いだされました。マルチン・ルターの人に、神は一つの器を見いだされました。ジョン・ウェスレーの人に、神は一つの器を見いだされました。いつでも霊的復興がある時には、ある器を見いだされます。それでは今日、神の器はどこにあるでしょうか？ 事実、父は今に至るまで働いておられます。しかし、神と共に働き続けるのはだれでしょうか？ だれか「私も働いている」と言うことができますか？ これは決定的に重要な質問です。

もし神が私たちに光を賜わり、私たちが神の真理を見るなら、今日、神が求めておられる器とは神が初めに定められた器であることを、私たちは承認するでしょう。この器とは、召会です。言い換えれば、神は個人の器ではなく、団体の器を求めておられるのです。

私たちはからだの生活をするを学ぶ必要があります。からだの命を生きるためには天然の命を拒絶し、神によって深い方法で裁かれ、取り扱われなければなりません。そして従順を学び、また交わりを学ぶ必要があります。こうすれば、私たちは神の器となる機会を得るでしょう。

### 中高生/大学生編

主は暗黒の時代から人類を連れ出されるために、改革の期間中マルチン・ルターを起こしました。主が世界の福音化のために教会歴史において、チャールズ・ウェスレーのような宣教師たちを用いて、アメリカで大復興をもたらされました。いつでも霊的復興がある時には、ある器を見いだされます。神はいつでも前進しておられます。今日、神の器はどこにあるでしょうか？ 神と共に働き続けるのはだれでしょうか？

北海道大学のクラーク博士は、敬虔なクリスチャンで、"Boys, be ambitious in Christ."と若い学生たち言いました。若い時から、より優れた目標を持ってください。神のエコノミーのビジョンに基づいた、キリストのからだを建造するための召会生活には、永遠の価値があります。そのための 4 大建設(祈りのグループ、福音農場、1 対 1 の牧養、全員機能)の実行は、建造のための詳細な施工図です。

実は学校の勉強も、将来の仕事も、あなたが施工図に従って奉仕するための準備です。若者の皆さん

が、若い時に主との交わりの中で、主の召しに応じることができるよう。献身を更新し、4 大建設に従って少しずつ前進できますように。主が皆さんの前途を祝福してくださいますように！ アーメン！

祈り:「おお主イエスよ、私は自分自身を空っぽにして、完全にあなたに開き、自分自身をささげます。主よ、あなたを愛します。どうか来て私を取り上げ、所有して下さい。神が求めておられるのは団体の器です。私がキリストのからだの中で、キリストのからだの建造のために、かしらであるキリストの中に成長仕込み、正常に機能する一肢体となることができますように」。

## 経験②: 主の御名を呼び、神のすべての豊富を経験する

御名は、主イエスのパースンとみわざにおいて、彼が何であられるかの総体的な表現です。「イエスの御名の中で」は、主が何であられるかのすべての領域と要素の中で、を意味します。

新約聖書では、主の御名を呼び求めることは、最初に、ペンテコステの日に、ペテロによってヨエルの予言の成就として述べられました。[ヨエル 2:32](#) そして、エホバの御名を呼び求める者はすべて救われる。

この成就是、彼の選びの民が彼の新約のヨベルにあずかるために、神が彼らの上にすべてを含む霊をエコノミー上において注がれたことと関係があります。神の新約のヨベルに関するヨエルの予言とその成就には、二つの面があります。神の側では、彼はご自身の霊を、復活したキリストの昇天において注ぎ出されました。私たちの側では、私たちは、すべてを成就し、すべてに到達し、すべてを獲得した、昇天した主の御名を呼び求めます。私たちキリストを信じる者が、すべてを含むキリストと、彼が成就し、到達し、獲得したすべてにあずかり、彼を享受するために、主の御名を呼び求めることは絶対に必要です。神の新約エコノミーにおいて、これは、私たちの完全な救いのために、私たちが手順を経た三一の神を享受することができる主要な実行です。初期の信者たちは、これを至る所で実行しました。

### 新人編

新人の皆さん、キリストを信じる私たちは、すべてを含むキリストと、彼が成就し、到達し、獲得したすべてにあずかり、彼を享受するために、主の御名を呼び求めなければなりません。主の御名を呼び求めるときに、神のすべての豊富を経験することができます。具体的にどのように主の御名を呼び求めるのでしょうか？

#### 1. 大声で叫ぶ: 使徒 2:21 そして、主の御名を呼び求める者はすべて救われる。

ここでの「呼び求める」のギリシャ語の言葉は、「上に」と「(名を)呼ぶ」から成っています。こうして、それは聞こえるように叫び、ステパノが行ったように、大声でさえ呼ぶことです。私たちは大声で叫ぶことによって主の御名を呼び求めます。

#### 2. 深呼吸するように呼ぶ: 哀歌 3:55 主よ、私は最も深い穴から、あなたの御名を呼び求めました。56 あなたは私の声を聞かれました。私の呼吸に、私の叫びに、耳を隠さないでください。 深呼吸する時、あなたは深くゆっくり、不必要な二酸化炭素を吐き出し、必要な酸素を吸い込みます。主

の御名を呼び求めることは、深呼吸のようであり、あなたは静かに、あなたの悩み、罪、焦り、悲しみ、疲労などの消極的なものを吐き出し、主の豊富、すなわち命、平安、安息、喜び、活力などを吸い込みます。

3. 純粋な心で主の御名を呼び求める人たち、霊的パートナーと共に呼ぶ：

Ⅱ テモテ 2:22 ただし、あなたは若い時の欲から逃れなさい。そして純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求めなさい。あなたは個人的に呼ぶだけでなく、あなたの霊的パートナーと共に呼ぶべきです。団体的に呼ぶことは、さらにあなたを力づけます。

4. 祈り：「おお主イエスよ、毎日霊を活用し、主の御名を呼び求めることを訓練します。自分の悩み、罪などの消極的なものを吐き出し、主の命、平安、安息、喜び、活力を吸い込みます。また、毎週小組、主日集会に参加し、兄弟姉妹と共に主の御名を呼び、キリストの豊富を経験します」。

経験③：ゼブルンとナフタリとなり、福音の宣べ伝えるために美しい言葉を語る

ゼブルンは…神の福音を宣べ伝えることにおける輸送と拡大のための、福音を宣べ伝える者の「岸」としてのキリストを予表します。キリストが福音として告知知らせられるべきすべての事を成就した後、ペンテコステの日に、少なくとも百二十の福音の「船」(彼らはみなガリラヤ人でした)が「岸」から出帆し、福音を拡大させました。

創世記第 49 章 21 節によれば、…ナフタリは放たれた雌鹿で、美しい言葉を語ります。ナフタリは、復活において死から解き放たれた方としてのキリストを予表し、放たれた雌鹿によって表徴され、彼の福音を宣べ伝えるために美しい言葉を語ります。予表において、ゼブルンとナフタリは一グループを形成し、神の救いのために成就されたキリストの贖いの喜ばしいおとずれを拡大し、増殖するためです。ゼブルンとナフタリの民はいずれもガリラヤ人であり、キリストの福音は彼らから拡大し、宣べ伝えられ、増殖します。

パウロはエペソに行って天幕造りをしましたが、やはり彼は使徒でした。…天幕造りであれ、医者であれ、すべては使徒になるためであって、使徒にならないためではありません。おそらく、天幕造りをしなければ、彼は使徒になれなかったかもしれません。私たちがこの点を神の御前ではっきり見ることができるようにと、私は望みます。多くの時、神はかえってパウロに仕事をさせました。それはパウロをいつそう使徒とならせるためでした。

私が行なう事は何であれ、神に仕えるためです。お金もうけをしないことは神に仕えることであり、お金もうけをすることも神に仕えることです。私たちには自然に一つの間違った考えがあって、同労者とは職業をみな捨てた人であり、経済的なことでは、職業以外から収入を得る人であると思うのです。そうではありません。同労者とは、神の御前に一つの心、一つの目的、一つの願いを持って、神に仕え、神に喜ばれる人です。これらの人の手があるような事をしていくのではなく、その目的が同じである限り、それらの人はみな主にあって同労者です。

1. 主の回復は、人の回復ではないので、必ず神の動きを理解し、聖霊の働きの中に入り、命の流れの中で神の動きに同労しなければなりません。聖霊は召会建造の益のために、環境の背後で働いています。在職青年であるあなたはこの神の動きを理解する必要があります。
2. あなたはビジネスでレバレッジの効いた(てこの力を利用した)仕事をすべきです。同様に、召会の奉仕でも聖霊の働きの外で奉仕するのではなく、聖霊の動きを理解し、聖霊の動きについていくべきです。この点は極めて重要です。そうでないと、あなたの奉仕は自分の奉仕になってしまい、何の追い風も、レバレッジもありません。
3. 政府は、人口減少の問題の解決策の一つとして、教育を受けた外国人を積極的に受け入れようとしています。この動きは実は一人の新しい人の出現のためです。外国人が社会に入って来ることで、日本の文化が弱められ、福音を日本人に対して伝え易くなります。また、救われた外国人が召会生活に入って来ることにより、日本語の聖徒たちが日本の文化から救われることを助けます。このことは、あなたが一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行することを助けます。
4. 日本経済は、バブル崩壊、リーマン・ショック、東日本大震災を経過して、弱くなっています。徐々に回復しているとはいえ、バブル崩壊以前のような強さはありません。また、中国経済は非常に強くなっています。このような状況下で、日本人は自信を失い、高ぶりから救われつつあります。その結果、日本人は救われ易くなっています。
5. あなたは仕事をしていても、全時間奉仕であっても、主の同労者です。あなたの仕事や家庭生活は、あなたをもっと主の同労者にすることを助けます。
6. あなたは主の同労者として、ゼブルンとナフタリになるべきです。ゼブルンは神の福音を宣べ伝えることにおける輸送と拡大のための、福音を宣べ伝える者の「岸」としてのキリストを予表します。ナフタリは、復活において死から解き放たれた方としてのキリストを予表し、放たれた雌鹿によって表徴され、彼の福音を宣べ伝えるために美しい言葉を語ります。
7. 祈り：「おお主イエスよ、私はゼブルンとナフタリとなり、復活の中で、また復活の大能によって、サタンに捕らえられている人々を解放するために、美しい言葉、解放を宣べ伝えます」。

詩歌 662 福音を宣べ伝える—命を流し出す(英 925)

1. えい光のふく音は、いのちのながれ;  
ひとはすくわれる、生けるあかしで。  
(復) 生けるみずながし、いのちあらわし、  
ひとの霊を生かす うつわとなせや。
2. いのちのあかしで、ひとはしんじる;  
いのち、供きゆうされ、主を受け入れる。
3. ぶどうの木のように、主のなかに住み、  
いのちをながして、主を供きゆうする。
4. せいかつのなかで、主を表げんする;  
ことばだけでなく、いのち植え込む。